

| | | | |
|-----|-------------|------|-----------------------------------|
| 科目名 | スポーツ傷害理学療法学 | 担当教員 | 山中 正紀 神成 透 ※印は実務経験のある教員を示す。 |
|-----|-------------|------|-----------------------------------|

| | | | | | | |
|-----------|------------------------|----|------|------|-----|------|
| 開講専攻 | 分野 | 種別 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| 理学療法専攻 | 専門科目 | 選択 | 3年次 | 前期 | 1単位 | 講義 |
| ナンバリングコード | 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 | | | | | |
| HR31DE | ②、④ | | | | | |

| | |
|------|--|
| 科目概要 | スポーツ損傷に対する基本的な理学療法評価および治療を行うために必要な知識を身につけることを目的とする。スポーツ現場で発生頻度の高い捻挫や靭帯損傷などの外傷と、オーバークースによって生じる関節障害、成長期に特異的なスポーツ傷害などに関して、機能解剖、病態、受傷機転、診断・評価、治療・予防の一連の流れを学習し、地域のスポーツ競技者・愛好者に貢献できる知識の習得を目標とする。 |
| 学習目標 | ① 代表的なスポーツ外傷および障害に関する基本的な知識を身につける。 ② 代表的なスポーツ外傷および障害に対する理学療法の評価と治療に必要な知識を身につける。 ③ 代表的なテーピング手技に関する知識と基本的技術を身につける。 |

| 回 | 項目 | 主な学習内容 | 到達目標 | 実務経験 教員担当 項目 |
|---------------|-----------------|---|---------------------------------------|--------------------|
| 1 | 総論 | スポーツ外傷・障害に対する理学療法の概要 | スポーツ外傷・障害に対する理学療法とスポーツ特異的な動作に関して理解する。 | |
| 2 | 下肢のスポーツ理学療法① | 下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法 | 代表的な下肢スポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解する。 | |
| 3 | 下肢のスポーツ理学療法② | 下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法 | 代表的な下肢スポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解する。 | |
| 4 | 国際大会におけるPTの役割 | 国際大会において理学療法士が果たす役割 | 国際大会における理学療法士の役割や実際の内容について理解する。 | |
| 5 | 上肢・体幹のスポーツ理学療法① | 上肢・体幹のスポーツ外傷・障害に対する理学療法 | 代表的な上肢・体幹のスポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解する。 | |
| 6 | 上肢・体幹のスポーツ理学療法② | 上肢・体幹のスポーツ外傷・障害に対する理学療法 | 代表的な上肢・体幹のスポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解する。 | |
| 7 | テーピング① | 足関節捻挫に対するテーピング | 足関節捻挫に対するテーピングの意義と手技を理解し、実践する。 | |
| 8 | テーピング② | 足関節捻挫に対するテーピング | 足関節捻挫に対するテーピングの意義と手技を理解し、実践する。 | |
| 評価方法 | | 筆記試験（100%） | | |
| 課題に対するフィードバック | | 1 授業をとおしてフィードバックする。 2 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 3 筆記試験、レポート課題の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。 | | |
| 教科図書 | | 青木治人・監『スポーツリハビリテーションの臨床』メディカル・サイエンス・インターナショナル、2019年 | | |
| 参考図書 | | 臨床スポーツ医学編集委員会・編『スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド 第2版』臨床スポーツ医学編集委員会、2015年 宗田大・編『復帰をめざすスポーツ整形外科』メジカルビュー社、2011年 片寄正樹、他・編『スポーツ理学療法プラクティス 機能評価診断とその技法』文光堂、2017年 片寄正樹、他・編『スポーツ理学療法プラクティス 急性期治療とその技法』文光堂、2017年 山本利春・編『競技種目特性からみたリハビリテーションとリコンディショニング』文光堂、2014年 | | |

| | |
|-------------------------|--|
| 学習の準備 | 1 (予習) 運動器傷害基礎論、運動器障害理学療法学、運動器障害理学療法学演習 I の内容を確認する (90 分)。 2 (復習) 講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする (90 分)。 |
| オフィスアワー | 月曜日 13 時~14 時半、その他在室時はいつでも可能 |
| 担当教員欄に※印を附した教員の 実務経験 | |